

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年7月31日

【認知症対応型共同生活介護用】

【評価実施概要】

事業所番号	2795900014
法人名	株式会社 のどか
事業所名	グループホームのどか住之江
所在地	大阪市住之江区北島2-2-8 (電話) 06-6115-2824

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 21年 7月 3日

【情報提供票より】(平成 21年 6月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 1月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	22人	常勤 6人, 非常勤 16人, 常勤換算	8.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000円	その他の経費(月額)	12,000円
敷 金	① (294,000円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,100円		

(4) 利用者の概要 (平成 21年 6月 1日現在)

利用者人数	18名	男性 3名	女性 15名
要介護1	2名	要介護2	6名
要介護3	5名	要介護4	4名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 82歳	最低 65歳	最高 96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小池外科、小林デンタルクリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人が母体の株式会社が運営する、2ユニット18名のグループホームです。同系列には5つのグループホームや老人保健施設などと日頃から連携を図り、情報交換や質の向上を目指して取り組んでいます。法人の掲げる10項目の理念の基、利用者や家族の関わりにおいて傾聴、喜怒哀楽を大切に、わがままの言える環境、感情豊かな生活を大切にしながら「一日を楽しく過ごす」ことを目標に掲げ取り組んでいます。同法人内の異動で、職員の交替もありますが、管理者の前向きで明るい姿勢、管理者と職員の信頼も厚く、課題とされる職員間のケアの質の統一に向けて、研修の充実や自己点検表の活用が検討されています。ホームの良い点は、丁寧な家族への月例報告、わかりやすい事故記録、同法人内グループホームの管理者同士が利用者の情報を共有し、介護計画を相談しあっています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連科目: 外部4)
	前回の外部評価結果を真摯に受け止め、サービスの質向上に向けて積極的に取り組んでいます。①運営推進会議は地域包括支援センターや地域の代表者の参加があり、2ヶ月に1回定期的に開催し、地域交流も進められてきました②家族には、便りと個別の「月例報告」をしています。前回課題の預かり金の管理も法人本部で行い、領収書等の確認も行っています ③思いや意向の把握はセンター方式を活用し、家族や利用者の思いを情報収集し、介護計画に活かしています
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	自己評価票は、管理者とケアマネジャー、常勤職員が相談しながら作成しています。非常勤職員には前回の報告書を回覧しています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議は規程を掲げ、区の地域包括支援センター職員や地域の代表者、家族の参加のもと、2ヶ月に1回定期的に開催しています。ホーム行事の取り組みや報告とともに、運営推進会議を通じて、老人会との交流も深まり、ボランティアの参加や老人会での活動等、情報交換を行っています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	ホームに意見箱を設置するとともに、家族の訪問時には利用者の様子を伝え、意見を聞くように努めています。担当職員が「月例報告」で利用者の日常生活の様子や診察の結果などを伝えていきます。家族へ行事参加を募り、家族同士で交流ができる場を提供しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	自治会に加入しており、地域の行事等も把握しています。近隣公園への散歩やスーパーマーケットへの買い物の際には、地域の人たちと会話を交わっています。公園の散歩で、小学生との交流が深まり、ホームに遊びに来てくれ、利用者にインタビューをする場面もありました。大学生の福祉体験の受け入れや老人会との交流も積極的に行っています。また、地域の夏祭りや地域の飲食店への外食なども行っています。ホームの草取りにもボランティアの参加があります。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	同一法人に5つのグループホームがあり、運営理念を「安心・尊厳ある生活、地域社会の一員として生活する」など10項目を掲げています。法人理念の基「職員はいつも利用者の傍で、不安にならないよう傾聴し、喜怒哀楽を大切に、一日を楽しく過ごしていただく」ことを目標に日々のケアに取り組んでいます。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は明文化し、玄関やスタッフルームに掲示しています。理念の実現に向けて、毎朝の申し送り時に唱和しています。また、管理者は新任教育の時にも説明、周知し確認をしています。職員も日々の業務の中で、利用者の声を聞き、楽しんで頂けるように常に意識をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	自治会に加入しており、回覧板で地域の行事等も把握しています。地域住民や老人会との交流も徐々に広がり、ホーム庭の草取りの手伝いや三味線ボランティアの方の訪問もあります。利用者も町内清掃への参加や近隣公園への散歩、スーパーへ買い物などに出かけ、小学生や地域住民とも顔なじみになり、小学生が利用者にインタビューに来たこともあります。ホーム内で取り組めるリズム体操なども地域の力を借りて、利用者の楽しみとして取り入れています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を理解し、前回の結果も改善の必要な項目やどのような項目が問われているか、職員に回覧し周知しています。また、外部評価の結果を真摯に受け止め、積極的により良いケアを目指し、取り組んでいます。自己評価の作成については、職員と共に取り組み、作成しています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の規程を定め、地域包括支援センターの職員・地域住民代表・利用者・家族代表の参加のもと、2ヶ月に1回会議を開催しています。ホームの取り組みを報告し、家族や地域の声を積極的に聞き、サービス向上につながるように努めています。この中で地域の老人会との交流も深まり、利用者の楽しみに繋がっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の報告書や外部評価結果は区の担当者に提出しています。また、区の事業者連絡会に参加するとともに、区のケースワーカーとも常に連絡を取り合っています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「のどか住之江」のホーム便りの発行とともに、毎月の「月例報告書」で、日常の暮らしぶりや体調等を担当職員が書面で報告しています。家族の来訪時には近況を伝え、必要に応じて電話等で連絡もしています。預かり金の管理は本部で行っています。買い物など必要に応じて家族に承諾を得て立替払いをしています。本部からレシートとともに請求書を家族へ送付し、毎月収支確認をしています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置をしていますが、家族から直接要望や苦情を聞くことが多く、その都度対応しています。運営推進会議においても家族の意見や要望を聞いています。家族会はありませんが、行事への参加案内をする中で数家族の参加があり、家族の交流となっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内で新事業所を開設したため、管理者を含めた内部異動もありましたが、なじみの職員によるケアを心がけています。新しい職員が入職した場合には、掲示するとともに家族にも紹介をしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修は新人研修マニュアルがあり、それに沿って実施しています。「感染症」「認知症」の研修資料はファイルに綴じており閲覧できるようにしていますが、研修受講記録がなく、年6回以上の研修実施に至っていません。現在「自己点検表」を法人独自で作成し、客観的にケアを見直す機会となっています。管理者は研修の必要性を感じており、今後の課題にしています。	○	「緊急時対応」「認知症」「感染症」を含む研修に年6回参加し、そのうち年2回は外部研修に参加することが求められます。また、ホーム内で伝達研修を実施し、記録に残すことが求められます。研修計画をたて、更なる質の向上に向けて、全職員が研修を受講できるよう体制を整えることが望まれます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、常に同法人グループホームと交流を持ち、質向上を目指して取り組んでいます。また、区のグループホーム連絡会に参加し、地域の関連事業所との情報交換も行っています。今後、職員同士の交流やホームの見学等が実施されるよう取り組むことが期待されます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの見学はいつでも可能で、地域の方が見学・相談に訪れています。入居前には自宅を訪問し、雰囲気や生活状況等を把握しています。入居まで関わりのあった事業所の方とも積極的に情報交換しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者は、利用者の環境変化による不安を共感し、一人ひとりの思いや感情を大切にしています。喜び、楽しみだけでなく、怒りやわがままの言える環境を作り、利用者同士のトラブルにならないよう見守りながら、支援しています。職員も利用者との生活を楽しんでいます。掃除好きな方が共有部分の掃除を行い、洋裁の得意な方は雑巾を縫うなど、利用者の得意な分野を活かした生活を支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者・家族の意見は書面に残されています。センター方式に取り組み、1年が経過し、独居の利用者も多い中、利用者一人ひとりの思いや声を聞き取り支援に努めています。また、入居後は利用者の日々の要望・意向なども申し送りノートに記録しています。更に写真などから生活歴を把握し、新たな情報として整理し、「お茶会」「喫煙」への支援と繋がっています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の思いや意見を聞き、カンファレンスを実施し個別の介護計画を作成しています。作成した介護計画は利用者本人や家族に説明し、同意のサインを得ています。職員は常に計画を意識して支援を行っています。ただし、介護計画と日々のケア実施記録との整合性が見られない状況です。	○	アセスメントで記載した生活特性が、日々の記録に繋がるよう工夫することが求められます。利用者との関わりの中で楽しみや生きがいに繋がるよう記録に反映することが期待されます。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、6ヶ月毎に見直しを行い作成しています。利用者の状態が変化した場合は、期間内であっても介護計画の見直しを行い、3ヶ月毎にモニタリングを行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	利用者、家族の要望に応じて、 通院介助や外泊支援を行って います。緊急時の医療連携や、 同法人内のデイサービスやグル ープホーム間の特性を活かした 支援を行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかかり つけ医と事業所の関係を築き ながら、適切な医療を受けら れるように支援している	母体法人の医療機関と連携し ており、往診を受けています。 眼科や皮膚科も含め、希望す る医療機関を継続して受診し ている利用者もいます。受診の 結果は、家族等へ電話や月例 報告にて行っています。往診の 希望については、利用者や家 族の要望を聞いています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針 の共有 重度化した場合や終末期のあり 方について、できるだけ早い段 階から本人や家族等ならびに かかりつけ医等と繰り返し話し 合い、全員で方針を共有して いる	母体法人が医療機関であり、「 重度化した場合の対応に係る 指針」を作成し、入居時に同 意書を交わしています。併せて 、ホームのできる最大のケア について説明しています。経過 とともに、家族や利用者の意 向も変わる場合もあるため、 入居後も家族や利用者がかか りつけ医と繰り返し話し合い、 記録に残すことが望まれます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入職時には守秘義務について誓約書交わしており、運営理念にも「利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを守り安心と尊厳のある生活をするよう努めます」を掲げています。職員は丁寧でさりげない対応を行い、利用者の誇りを大切にしています。今後も言葉遣いだけでなく、笑顔や感情表現まで含めて日常的に職員間で確認し合い、全ての職員の質の向上に繋がるよう取り組むことが期待されます。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はありますが、利用者一人ひとりのペースを尊重し、希望に沿った支援を大切にしています。タバコの好きな方の希望がある度に、ホームの庭へ出て喫煙の支援を行う等の取り組みも行っています。職員は業務に追われ、「待ってね」と言うことがあり申し訳ない気持ちになることがありますが、利用者のそのときの思いを大切にしたいケアを目指しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取り入れ、献立の作成からカロリー計算までホームで行なっています。近隣スーパーへの食材の購入、料理の下ごしらえ、下膳、後片付け等、利用者はできることを行っています。職員も利用者と一緒に食事を摂りながらサポートしています。今後はさらに、調理の後片付けは、食後に利用者で行うなど、ゆっくり楽しく食事ができる雰囲気作りが期待されます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	通常は、買い物や外出などがあり、週3回午前中に入浴を行っています。希望すれば毎日入浴することもできます。入浴を好まない利用者には、声かけの工夫や入浴時間にこだわることなく対応をしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内の掃除や買い物、調理、食器の片付け、新聞を取りに行くことなどを日課にしている利用者がいます。生活歴を把握し、洋裁の得意な利用者が雑巾を縫う、お茶を立てお手前を披露してもらう等、利用者一人ひとりのできること、得意なことを大切にしながら、役割や楽しみごとに繋がる支援をしています。また、買い物では利用者がお金も支払う場を支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣のスーパーや公園は、散歩のコースにもなっています。車椅子を使用する利用者も多くなり、日常的な個別での外出ができにくくなりましたが、玄関先や庭など、外気に触れる機会を作っています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階2階の内扉は施錠されており、テンキーでの開閉になっています。番号は表示していますが、定期的に番号を変更しており利用者が自由に入りにくい状況です。開設当初は開錠していましたが、階段が急であることやエレベーターの操作の安全面から、現在は施錠しています。	○	本人の思いや身体力を活用しながら、職員の人員配置の時間等を考慮し、鍵をかけずに安全に過ごす工夫が求められます。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害に備えるマニュアルを作成し、消防署の指導を受け年2回の避難訓練を行っています。2階からの避難方法の指導も受け、夜間を想定した実地訓練も行う予定です。非常・災害時に持ち出しやすいようリュックに必要品をまとめ、食料・水などの備蓄をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事摂取量・水分摂取量を記録し、確認しています。食事は1週間毎に献立を作り、職員が食品交換表を見ながらカロリー計算をしています。日常的に医療との連携があるので、糖尿病や高血圧など生活習慣病の気になる利用者がある場合など、栄養バランスを個別で医師へ相談し、月例報告などで家族へ伝えるなどの工夫をされてはいかがでしょうか。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームには駐車場があり、ホーム周辺や裏には庭もあります。駐車場入口には大きな犬の形をしたポストがあり、目印になっています。また、1階の玄関先はガラス張りの開放的なスペースで、食堂兼リビングからは庭に出られるようになっています。リビングも明るく開放的で、隅にはソファがあり、利用者同士で寛げる場所になっています。壁には、季節感を出す作品の展示があります。今後の取り組みとして、利用者の状況に合わせて、野菜や果物がカウンターに置かれ、鉢植えが身近にある等、生活感を豊かにする工夫をされてはいかがでしょうか。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みのタンスや仏壇、家族の写真、ぬいぐるみをベッド脇に配置し、利用者が居心地よく過ごせる工夫をしています。家族の協力も得て、書や絵画を額に入れ壁に飾るなどの工夫もしています。独居の利用者も多く殺風景になりがちですが、職員も写真の切抜きを持ち寄るなどの取り組みをしています。		